

語感や語彙を豊かにすること(慣用句・ことわざ)

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか?～

ことわざや慣用句など生活言語に興味・関心をもたず、語彙を増やす意欲に乏しい。

適切な語句を選択する：「白羽の矢が→立つ」（兵庫県正答率 54.6% 無回答率 0.9%）

→ 約半数の生徒が、上記の慣用句を知らない実態があった。

H28年度全国学力・学習状況調査（国語A9三才）より

ことわざや慣用句という言葉は知っていても、表現や意味を理解している生徒は少ない。また、表現や意味を知っていても、自分の文章や会話の中で活用できていない。ことわざや慣用句を使っていきたいという意識はあるが、どんな場面で使えばいいかわからない様子である。

実践の概要

単元名

言葉の小窓2

『慣用句・ことわざ』教育出版

目標 慣用句やことわざに関する知識を広げ、「伝統的な言語文化」の一部としての意味を知り、普段の生活の中に活用していけるよう、語彙を豊かにすること。

内容

- ・各自担当のことわざを決め、資料集や図書室などで意味や用例を調べる。
- ・ことわざの意味を理解した上で、それを絵で表現し、短作文を作る。
- ・班で互いに絵を見せ合い、どのことわざかを推測させる。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容（単元名）		つまずきの実態
第3学年	言葉の小窓2	ことわざや慣用句など生活言語に興味・関心をもたず、語彙を増やす意欲に乏しい。
第2学年	対義語辞典を作ろう！	語句や文、語彙などに興味をもち、主体的に調べ自らの表現活動にいかそうとする意識が低い。
第1学年	芸術作品の鑑賞文を書こう！	語彙が乏しいため、自分の考えを相手にわかりやすく表現することができない。

単元末の目指す姿

- ・ことわざを使うことによって、自分の思いを豊かにわかりやすく伝えることができると理解できるようになる。
- ・絵やふき出しを作ることで、ことわざを身近なものと感じられる。
- ・曖昧に覚えていたものや思い込みで使っていたものを正しく理解し、使えるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

複数の資料を使い、より理解しやすい表現を選択させる。

活動のねらい▶ 複数の資料の内容を比較・吟味し、それを用いて表現することで、理解の定着につなげることができる。

ここがポイント

- ① 便覧やことわざ辞典を使い、意味や由来を調べる。同時に同義のことわざや対義のことわざを知り、語彙を増やす。
- ② 短作文の推敲や絵の表現について、グループで意見交換する。
※必要に応じて、誤解した使われ方が多いことわざを提示し、本来の意味と「誤り」とを比較させる活動を取り入れる。

複数の資料の内容の比較



こっちの便覧の表現を使った方が、言いたいことがより伝わるんじゃないかな。

(期待される生徒の姿)

曖昧に覚えていたものや思い込みで使っていたものを正しく理解し、使えるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

絵とひと言ふき出しでことわざの意味を表現し、班で互いに推敲する活動を取り入れる。

活動のねらい▶ 生徒同士でアドバイスすることによって、意味を理解しにくい生徒も意欲的に取り組むことができる。

ここがポイント

- 事前に他のことわざを使った用例の見本イラストを用意しておく。
- 一目見てなんのことわざかわかるようシンプルな表現にするように指示をする。
- 短作文は主語・述語を入れることと、辞書や用例のままではなく、自分の体験や身近なことに置き換えて表現するように指示する。

授業の様子



このイラストで伝えようとしていることと、ことわざの意味や使い方は一致しているかな。

(期待される生徒の姿)

ことわざの意味を絵とひと言ふき出しで表現することによって、意味を可視化しやすくなり、ことわざの意味や整合性等、視点を明確にして推敲することができる。